Bulletin of Aichi Univ. of Education, 64（Educational Sciences）, pp. 47 − 54, March, 2015

教員志望学生のHIV/AIDSに関する知識と指導に対する意欲
―養護教諭志望者とそれ以外の教諭志望者の比較―

山田 浩平* 樫本 知夏**

*養護教育講座
**瀬戸市立瀬戸特別支援学校

The Motivation for the Teaching and Knowledge about HIV / AIDS of University Students Aspiring to the Teacher

Kohei YAMADA* and Tomoka KASHIMOTO**

*Department of School Health Sciences, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan
**Seto Special Support Education School, Seto 489-0886, Japan

Keywords: HIV / AIDS, knowledge, motivation, students aspiring to the teacher
HIV / AIDS, 知識，意欲，教員志望学生

Ⅰ はじめに

日本エイズ動向委員会の調査によると[1]、2013年7月現在、わが国のHIV感染者数は、15,227人、AIDS患者数は、6,972人となっており、新規報告者数としては同委員会の1984年以降の調査の中で過去1位となっている。加えて、同委員会は、2013年1～9月に献血された約390万件の血液のうち、HIV検査で陽性となった血液が55件あったと報告している。わが国は、先進国の中でもHIV感染率とAIDS患者の増加率高くはないが、感染者数/患者数が増加している原因としては、保健所等での抗体検査数の減少が考えられている。抗体検査数については、2008年がもっとも多く177,156件であったが、その後減少しており2013年7月までの時点では、46,407件（昨年同時期比−5024件）に留まっている。これは、日本でのHIV/AIDSに対する関心が薄れ、検査を受けなくなっていることが考えられる。また、2013年11月には、HIV感染者の男性が日本赤十字社の献血の安全検査をすり抜けて輸血に使われたという報道もされている[2]。この報道によると、男性は、HIV検査のために献血をしたといわれている。献血ではHIV検査の結果を本人に知らされることはないため、HIV検査をするためには保健所等に行かなければならないことなど、HIV/AIDSに関する正しい情報を早い時期から伝えていく必要がある。

文部科学省による学習指導要領では、高等学校学習指導要領の保健体育編[3]で、「エイズ及び性感染症の予防」について触れられており、1. エイズ及び性感染症の疾病概念や感染経路についての理解、2. これらの疾病の予防方法を身に付けることの必要性、3. エイズの病原体とその主な感染経路、4. 感染予防について取り扱うことになっている。また、指導にあたっての配慮事項には、1. 発達の段階を踏まえること、2. 学校全体で共通理解を図ること、3. 保護者の理解を得ることなどがあげられている。加えて、小・中学校の保健の教科書にも、HIV/AIDSについて記載されており[4)−5)]、義務教育の段階からHIV/AIDSについての正しい知識を得て、HIV感染者、AIDS患者に対する偏見や差別をしない、自分が今後、感染しない、させないための適切な行動ができるようにする教育の必要性がうかがえる。しかし、小学校教諭、中学･高校教諭、養護教諭を養成する大学において、HIV/AIDSについての知識を学ぶ機会はわずかである。そのため、これらの職種を志望する学生は、HIV/AIDSについての知識は十分に得られていない可能性がある。

HIV/AIDSに関する知識、検査態度に関する先行研究を概観すると[6)−16)]、知識レベルが高い群の方が低い群よりもHIV検査受検行動により積極的であるという報告がされている[4)]。また、厚生労働省HIV感染症の疫学研究班行動科学研究グループの調査では、日常生活におけるHIV感染の可能性について、約75%の人が正しい知識を持っているが、感染から身を守ったり、自らの感染の有無を知ったりするための知識がほとんど普及されていないことが報告されている[5)]。こ

れらの先行研究は、成人や中高生や一般の大学生を対象とした調査であり、学校教員を目指す学生を対象としたHIV/AIDSに関する知識や意識調査はほとんど行われていない。この現状を踏まえ、将来子どもたちに授業をする立場となる学生が、HIV/AIDSに関してどの程度の知識を持っているのかを把握し、HIV/AIDSに関する授業に対する意欲を調査することによって、日本の学校現場でのHIV/AIDSに関する教育の充実につながるのではないかと考えられる。

そこで、本研究では、今後の教育の一翼を担う学生のうち、養護教諭志望者とそれ以外の教諭志望者のそれぞれの立場におけるHIV/AIDSに関する知識と指導に対する意欲を明らかにし、HIV/AIDSに関する授業を充実させるための基礎資料を得ることを目的とする。

Ⅱ 方法

1. 調査時期・対象者

2013年11月から12月にかけて、北海道および愛知県の養護教諭養成課程のA、B、C大学1～4年生223人と、愛知県の教員養成課程のA、D、E大学1～4年生244人を対象に自作の無記名自記式の質問紙を用い、集合調査の形式で行った。調査票はその冒頭に本調査の趣旨を記載し、対象者本人が調査への協力に同意するか否かを答える解答欄を設け、これに回答した上で各質問に答えてもらうようにした。質問紙調査協力の同意が得られなかった場合には、その場で調査を打ち切るように配慮した。

なお、記入漏れや重複回答があるものを除いた有効回答数は、養護教諭養成課程では219人、教員養成課程では237人であった。

2. 調査内容

質問紙は養護教諭志望者と養護教諭以外の教員志望者それぞれを対象としたものを作成した。

2.1. 養護教諭志望者

調査内容は1）属性、2）HIV/AIDSに関する知識、3）教員になった際のHIV/AIDS教育に対する意欲についてであった。

1）属性について

学年、年齢、性別、保健免許取得の有無について回答を求めた。

2）HIV/AIDSに関する知識

2)-1. 小・中・高で学んだHIV/AIDSに関する内容について11項目（病名、感染経路、予防法、症状、潜伏期、レッドリボン、差別や偏見、日本の現状、世界の現状、検査、その他）からすべてを選択

2)-2. HIVとAIDSの違いの記述

2)-3. エイズウイルス（HIV）が感染する可能性があると思うものを16項目（つり革、お金、献血、握手、母乳、咳・くしゃみ、飲食、蚊・ハエ、洋式トイレ、銭湯、性交、注射の回し打ち、キス、抱き合う、理・美容室）からすべて選択

2)-4. 以下に示すHIV/AIDSに関する正誤を問う13項目

①AIDSはウイルス感染で起こる
②HIVの潜伏期間は約3ヶ月である
③HIV/AIDSを完全に治す薬や治療法はある
④HIV/AIDSの感染予防ワクチンがある
⑤1回の性行為では感染しない
⑥HIV陽性とAIDSは同じである
⑦日本人感染者の多くは海外で感染している
⑧感染者と同じ学校や職場にいるとうつる
⑨感染経路は血液感染のみである
⑩日本のHIV/AIDS感染者件数は増加している
⑪HIV/AIDSに感染していると外見で分かる
⑫HIV/AIDS感染予防にはコンドームが効果的である
⑬ピルはHIV/AIDSの感染予防に効果的である

2)-5. HIV/AIDSの知識の情報源について11項目（学校での教育・講習、テレビ・ラジオ、インターネット、ポスター・パンフレット、学会・講習会、病院・保健所、新聞、月刊誌・週刊誌、その他）からすべてを選択

2)-6. 自分にHIV感染の疑いがあるときの対応について6項目（保健所で血液検査を受ける、医師の診察を受ける、相談センターに行く、献血に行って結果を教えてもらう、放置、わからない）からすべてを選択

3）教員になった際の教育に対する意欲

3)-1. HIV/AIDSについての授業を積極的に行いたいかについて「保健の授業の単元としてあれば積極的に行いたい」「保健の授業の単元としてあれば積極的にではないが行う」「保健の授業以外でも積極的に行ないたい」「行いたくない」の中から1つ選択し、さらにそれぞれの項目について以下の中から理由を1つ選択

・積極的に行いたい理由
①学習指導要領に記載されているから
②積極的に取り扱うべき内容だと思うから
③自分自身が積極的に伝えたいと感じるから
④HIV/AIDSに関する活動をしていたから
⑤その他

・積極的には行いたくない理由
①内容に関して自信がないから
②何を教えるべきか分からないから
③内容が取り扱いにくいから
④子どもが興味を示さない内容だから
⑤自分自身が勉強不足だから

⑥授業を実施することに慣れていないから
⑦その他

3)-2. HIV/AIDSの授業を行う際、一番望ましいと思う授業形態について「自分ひとりで」「学級担任もしくは教科担任とのTeam Teaching（TT）」「学校医等による講演会」「その他」の中から１つ選択

3)-3. HIV/AIDSの授業を行う際に知っておきたいこととして10項目〔HIVとAIDSの違い、HIV/AIDSの潜伏期間、HIV/AIDS感染時の症状、HIV/AIDSの感染のしくみ、感染経路（予防を含む）、検査について、世界のHIV/AIDSの状況、日本のHIV/AIDSの状況、HIV/AIDSに対する取り組み、その他〕からすべてを選択

2.2. 養護教諭以外の教員志望者

調査内容は養護教諭志望者と同様、1)属性、2)HIV/AIDSに関する知識、3) 教員になった際のHIV/AIDS教育に対する意欲についてである。

1）属性と2）HIV/AIDSに関する知識については、養護教諭志望者と同様のものを用いた。3)教員になった際の教育に対する意欲については、HIV/AIDSの授業を行う際に一番望ましいと思う授業形態を「自分ひとりで」「養護教諭に頼む」「養護教諭とのTT」「学校医等による講演会」「その他」の中から1つ選択する以外は、養護教諭志望者と同様のものを用いた。

3. 分析方法

統計分析には統計ソフトSPSS Statistics Version21を使用し、χ^2検定、調整済み残差分析を行った。

Ⅲ　結果

1. 属性について

養護教諭志望者については、1年生78人、2年生68人、3年生52人、4年生21人であった。そのうち、女子は全員であり、保健免許取得予定者は189人であった。

養護教諭以外の教員志望者については、1年生62人、2年生35人、3年生134人、4年生6人であった。男子が122人、女子が115人であり、志望校種は小学校102人、中学体育59人、中学数学27人、高校数学22人、高校体育14人、その他が13人であった。

2. HIV/AIDSに関する知識

2.1. 小・中・高で学んだHIV/AIDSに関する内容

HIV/AIDSに関する内容は、Figure 1で示すように、養護教諭志望者、それ以外の教員志望者のいずれも、上位3項目は、「病名」、「感染経路」、「予防法」であった。これらの項目について有意差の検定を行ったところ、「差別や偏見」、「潜伏期」、「世界の現状」、「検査」は、養護教諭志望者の方がそれ以外の教員志望者に比べて有意に割合が高かった（いずれもp<.001）。

2.2. HIVとAIDSの違いの記述

この記述問題については、「HIVはウイルス名、AIDSは病名」と書かれたものを正解とした。その結果、養護教諭志望者の正解者が56.5%に対し、それ以外の教員志望者では、正解者が29.7%であり、両者に有意差が認められた（χ^2=25.87、p<.001）。

2.3. HIVが感染する可能性があると思うもの

感染する可能性があると思うものを16項目の中から

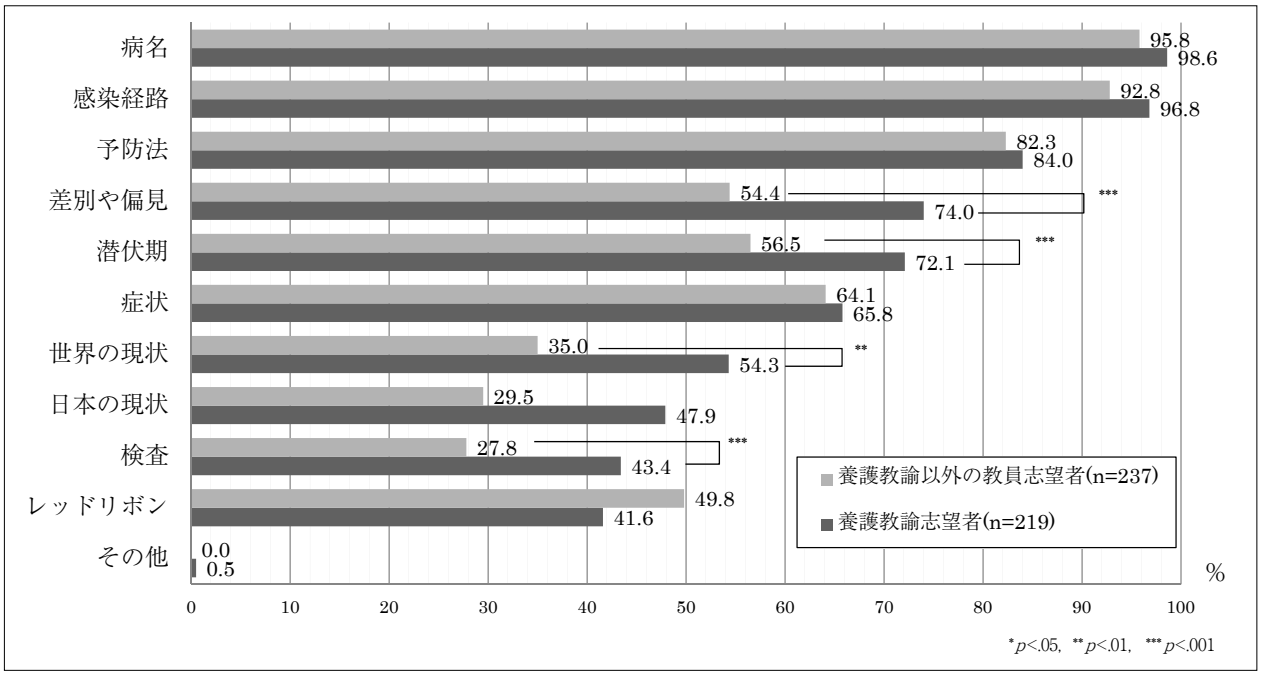

Figure 1　小・中・高等学校で学んだHIV/AIDSに関する内容

選んでもらったところ、上位3項目は、養護教諭志望者、それ以外の教員志望者ともに「性交」、「注射の回し打ち」、「献血」であった。「蚊・ハエ」（$p<.01$）「キス」（$p<.05$）については、養護教諭志望者に比べてそれ以外の教員志望者の割合が有意に高かった。

2.4. HIV/AIDSに関する問題

問題の正解率について見ると、Figure 2に示すように、すべての項目について養護教諭志望者の値が高かった。その中でも、養護教諭志望者とそれ以外の教員志望者との間に有意差が認められた項目は、「感染経路は血液感染のみである」「日本のHIV/AIDS感染者件数は増加している」「ピルはHIV/AIDSの感染予防に効果的である」「日本人感染者の多くは海外で感染している」「HIV/AIDSの感染予防ワクチンがある」「HIVの潜伏期間は約3ヶ月である」「HIV/AIDSはウイルス感染で起こる」であった（いずれも$p<.001$）。

2.5. HIV/AIDSについての知識の情報源

知識の情報源について見ると、上位の項目は、養護教諭志望者、それ以外の教員志望者いずれも「学校での教育、講習」、「テレビ・ラジオ」、「インターネット」、「ポスター・パンフレット」であった。これらの項目について有意差の検定を行ったところ、養護教諭志望者の方がそれ以外の教員志望者に比べて「学会・講演会」の割合が有意に高かった（$p<.01$）。

2.6. 自分にHIV感染の疑いがあるときの対応

対応について見ると、養護教諭志望者では「保健所で血液検査を受ける」、それ以外の教員志望者では、「医師の診察を受ける」という回答がもっとも多かった。有意差の検定を行ったところ、「保健所で血液検査を受ける」は、養護教諭志望者の方がそれ以外の教員志望者に比べて有意に割合が高く（$p<.001$）、「医師の診察を受ける」は、養護教諭以外の教員志望者の方が養護教諭志望者に比べて有意に割合が高かった（$p<.001$）。

3. HIV/AIDSの教育に関する意欲

3.1. HIV/AIDSの授業を積極的に行いたいか否か

積極的に行いたいか否かについては、「積極的に行いたい」と回答した者は養護教諭志望者では84.5%、それ以外の教員志望者では68.8%であり、両者に有意差は認められなかった。「保健の授業以外でも積極的に行ないたい」と回答した者に、具体的にどこで行いたいかを記述式で回答をもとめたところ、養護教諭志望者では「学校保健委員会」、「全校集会」、「保健室」、「保健だより」など、養護教諭以外の教員志望者では「総合学習」であった。

次に、積極的に行いたいと回答した者に対してその理由を複数回答で得た結果、養護教諭志望者、それ以外の教員志望者のいずれも「積極的に取り扱うべき内容だと思うから」が最も多かった。いずれの項目も有意差は認められなかった。

一方、HIV/AIDSの教育に関する意欲について、「積極的には行いたくない」と回答したものに対し、理由を複数回答で得た結果、養護教諭志望者、それ以外の教員志望者のいずれも上位3項目は「自分自身が勉強不足だから」「内容が取り扱いにくいから」「内容に関して自信がないから」であった。いずれの項目も有意差は認められなかった。

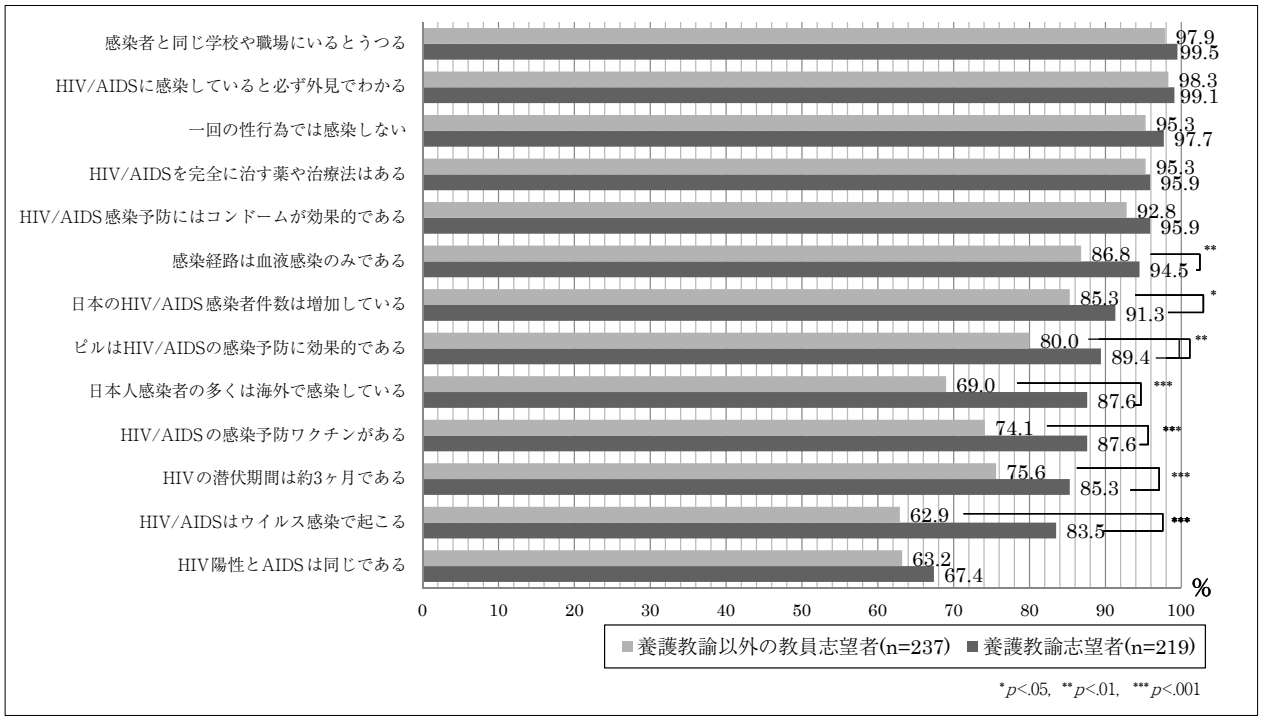

Figure 2　HIV/AIDSに関する問題の正解率

3.2. HIV/AIDSの授業を行う際の授業形態

授業形態で一番望ましいと思うものについては、Figure 3で示すように、養護教諭志望者では「学校医等による講演会」が、それ以外の教員志望者では、「担任と養護教諭によるTT」が最も多かった。有意差の検定を行ったところ、「学校医等による講演会」は、養護教諭志望者の方がそれ以外の教員志望者に比べて有意に割合が高く（$p<.001$）、「担任と養護教諭のTT」は、養護教諭以外の教員志望者の方が養護教諭志望者に比べて有意に割合が高かった（$p<.01$）。

3.3. HIV/AIDSの授業を行う際に知っておきたいこと

授業前に知っておきたいことについては、Figure 4に示すように、上位3項目は養護教諭志望者は「感染経路（予防を含む）」、「HIV/AIDSの感染のしくみ」、「HIV/AIDS感染時の症状」であり、それ以外の教員志望者では、「感染経路（予防を含む）」、「HIVとAIDSの違い」、「HIV/AIDSの感染のしくみ」であった。有意差の検定を行ったところ、「HIV/AIDSの違い」（$p<.05$）「HIV/AIDSの潜伏期間」（$p<.01$）は、養護教諭以外の教員志望者の方が養護教諭志望者に比べて有意に割合が高かった。

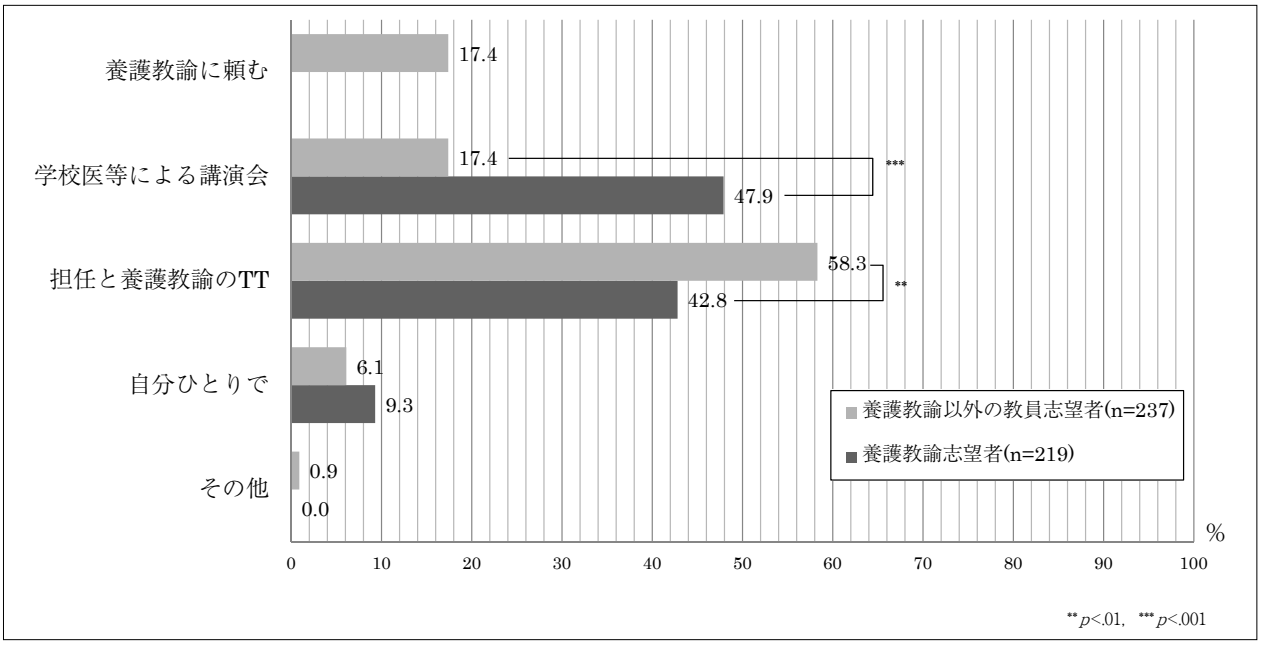

Figure 3　HIV/AIDSの授業形態で一番望ましいと思うもの

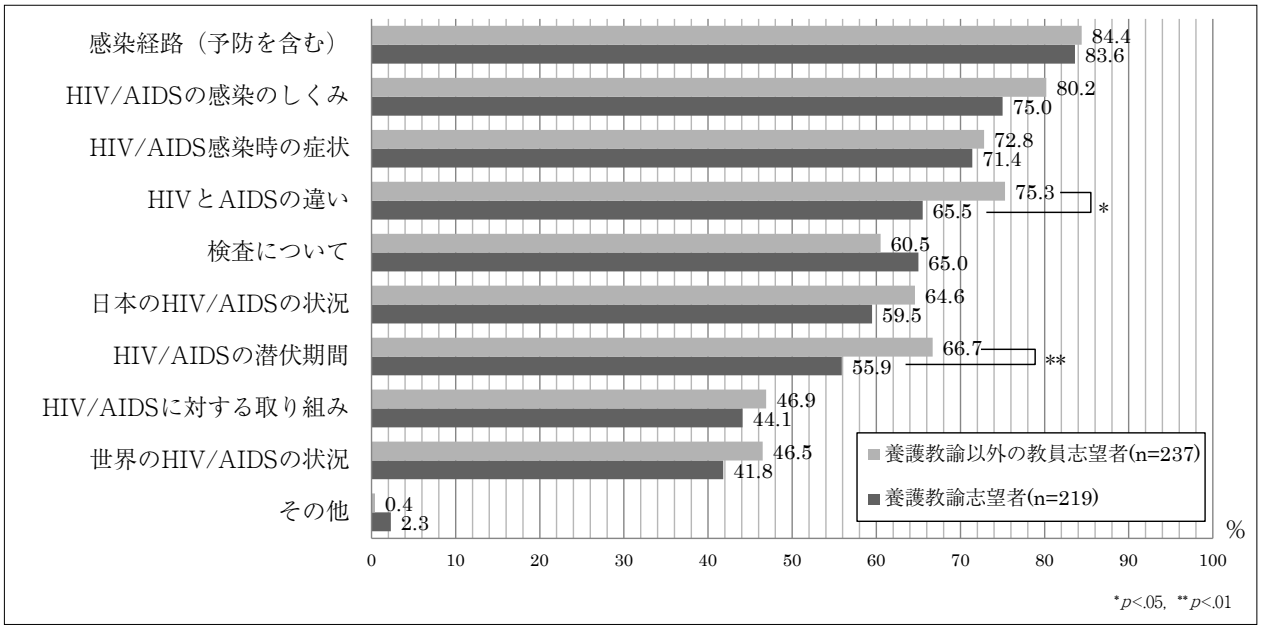

Figure 4　HIV/AIDSの授業を行う際に知っておきたいこと

Ⅳ 考察

本研究は、「HIV/AIDSに関する知識」と「HIV/AIDSの授業に対する意識」の2点について、養護教諭志望者とそれ以外の教員志望者とで比較した。1点目については、小・中・高で学んだ知識、今現在のHIV/AIDS関連の知識、知識の情報源、感染がある時の対応の4つを検討した。2点目は、授業を積極的に行いたいかどうか、その理由、授業形態、自分が知っておきたいことの4つを検討した。

1. HIV/AIDSに関する知識

まず、小・中・高で学んだHIV/AIDSに関する事柄については、「病名」と「感染経路」が多かった。HIV/AIDSについての記述問題については、「HIVがウイルス名、AIDSが病名」と答えることのできた養護教諭志望者とそれ以外の教員志望者との間に有意な差が認められた。HIVとAIDSを混同している者が多いことがわかる。また、HIV/AIDSに関して文章の正誤を問う問題では、すべての問いで養護教諭志望者の正答率が高かった。特に、有意差が見られた項目のひとつである「感染経路は血液感染のみである」の項目では、養護教諭以外の教諭志望者の92.8%の者が小・中・高で学んだと回答したものの正答率は86.8%であった。HIV/AIDSに関する正誤を問う問題では、厚生労働省の先行研究[5]と比較すると、「HIV/AIDSに感染していると必ず外見でわかる」「HIV/AIDS感染予防にはコンドームが効果的である」、「日本のHIV/AIDS感染者件数は増加している」、「HIV/AIDSの感染予防ワクチンがある」の4項目は、養護教諭以外の教員志望者の正答率が低かった。

エイズウイルス(HIV)が感染する可能性があると思うものについては、主な感染経路である「性交」、「注射の回し打ち（血液感染）」、「母乳」のうち、「母乳」を選択する者が養護教諭志望者55.7%、それ以外の教員志望者54.4%であった。これに対して、感染の可能性が低い「献血」については、養護教諭志望者で81.7%、それ以外の教員志望者で83.1%が選択していた。また、「蚊・ハエ」、「飲食」については養護教諭志望者とそれ以外の教員志望者の間で有意差がみられた。養護教諭志望者もそれ以外の教員志望者いずれも、感染の報告の事例のない事柄についても感染する可能性があると回答した者がいた。これらのことから、HIV/AIDSについて、小・中・高では学ぶものの、それがHIV/AIDSへの興味、関心につながっておらず、なんとなくHIV/AIDSについて知っているという学生が特に養護教諭以外の教員志望者に多いと考えられる。加えて、養護教諭志望者とそれ以外の教員志望者の知識に差がみられることから、養護教諭志望者はその職の特性からして比較的HIV/AIDSへの興味、関心を持ちやすいのではないかと考える。

次に、HIV/AIDSに関する知識の情報源については、「学校での教育・講習」が養護教諭志望者（97.7%）、それ以外の教員志望者（97.9%）と、最も多かった。学校で得られる情報が大部分を占めていることから、学校での教育が重要であることが分かる。これに対し、「テレビ・ラジオ」、「インターネット」については1割～3割強の者が選択していた。テレビやラジオ、インターネットなどの情報には、正しいとはいえないものや、誤解を招くような表現をしているものもある。これは新聞や月刊誌、週刊誌、本などにもいえるが、HIV/AIDSに関する情報について本当にそれが正しいのか、最新のものなのかを判断する必要がある。

続いて、自分にHIV感染の疑いがあるときの対応としては、「血液検査を受ける」と回答した者の割合は、養護教諭志望者で66.5%、それ以外の教員志望者では41.8%と有意差がみられた（$p<.001$）。また、養護教諭以外の教員志望者で最も多かった項目は「医師の診察を受ける」（47.1%）であった。これらから、保健所で無料匿名で行われているHIV抗体検査の認知度はまだ低いことが分かる。加えて、「献血に行き、結果を教えてもらう」の選択者が、養護教諭志望者で1.0%、それ以外の教員希望者で5.8%おり、このことからもHIV抗体検査やHIV感染が疑われる際の対応について間違った認識を持っている学生がいると考えられる。

2. HIV/AIDSに関する授業に対する意識

まず、「HIV/AIDSについての授業を積極的に行いたいか」の問については、養護教諭志望者では84.5%、それ以外の教員志望者では68.8%が「積極的に行いたい」と回答した。「積極的に行いたい」理由としては、「積極的に取り扱うべき内容だと思うから」が最も多く、「自分自身が積極的に伝えたいと感じるから」の順であった。このことから、HIV/AIDSに関する授業への意欲が高い学生が多いことが分かる。

これに対して、「積極的には行いたくない」理由としては、「自分自身が勉強不足だから」、「内容が取り扱いにくいから」、「内容に関して自信がないから」が上位であった。このことからHIV/AIDSに関する授業への意欲が低い理由としては、自分の知識不足が主であることが考えられる。

次に、「HIV/AIDSの授業を行う際の授業形態で一番望ましいと思うもの」については、養護教諭志望者が「学校医等による講演会」が最も高かったのに対し、それ以外の教員志望者では、「担任と養護教諭とのTT」が最も高かった。このTTの項目は、養護教諭志望者で42.2%を占めており、担任、教科担任と養護教諭が協力して授業を行うことが望ましいと考えている学生が多いことがわかる。また、養護教諭以外の教員志望者に関しては、「養護教諭に頼む」という意見が

13.7%あったことからも、養護教諭以外の教員志望者は、専門知識をもった養護教諭との協力、連携が必要であると考える者が多いことがわかる。

続いて、「HIV/AIDSの授業を行う際に知っておきたいこと」については、ほとんどすべての項目で半分以上の学生が知りたいと回答していた。特に、「HIVとAIDSの違い」、「HIV/AIDSの潜伏期間」については、養護教諭以外の教員志望者の方が多く選択していた。「その他」の具体的内容としては、「偏見や差別について」(2件)、「危険性」(1件)、「関わり方、自分たちができること」(2件)があった。このことから、HIV/AIDSの授業を行う際に知っておきたいこととしては、基礎的・基本的な知識があげられた。

V　まとめ

養護教諭を志望する大学生219人と養護教諭以外の教員を志望する大学生236人を対象に無記名自記式のアンケートを用いて、①HIV/AIDSに関する知識②教員になった際のHIV/AIDS教育に対する意欲の2点について尋ねた。主な結果は以下の通りであった。

1) HIV/AIDSに関する正しい知識量については、養護教諭志望者とそれ以外の教員志望者で差がみられ、特に顕著な差がみられたのは、「HIVとAIDSの違い」、「感染経路」、「日本の現状」であった。

2) HIV/AIDSについての授業を積極的に行いたいか否か尋ねたところ、行いたいと答えた学生が養護教諭志望者で84.5%、それ以外の教員志望者で68.8%と高い割合を占めており、その理由として「積極的に取り扱うべき内容だと思うから」という回答がいずれも8割を占めた。

3) HIV/AIDSについての授業を積極的に行いたくない理由としては、養護教諭志望者とそれ以外の教員志望者のどちらも自分自身の知識不足をあげる者が多かった。

4) HIV/AIDSの授業を行う際の授業形態については、養護教諭以外の教員志望者は、「養護教諭に頼む」(13.7%)「担任と養護教諭とのTT」(45.0%)と、養護教諭のもつ専門的知識を活用したいと考える者が多かった。

以上のことから、養護教諭志望者もそれ以外の教員志望者も、HIV/AIDSについての授業を積極的に行いたいと答える一方で、積極的に行いたくない理由としては、自分自身の知識不足をあげる者が多かった。このことを裏付けるかのように、HIV/AIDSに関する正しい知識量は養護教諭志望者とそれ以外の教員志望者も高くはなく、両者の間に有意な差がみられた。さらにこれらの現状から、HIV/AIDSに関する授業の実施については、養護教諭以外の教員志望者は養護教諭と協力したいと考える割合が高かった。

今後は、HIV/AIDSに関する正しい知識を学生のうちに身につけることや、養護教諭とそれ以外の教員との協力をすることが、学校現場でのHIV/AIDS教育の活性化・充実化につながり、さらに将来的には、HIV/AIDSに関する知識の普及につながる可能性が考えられる。

参考文献

1）厚生労働省（2013）　第134回エイズ動向委員会　平成25年8月30日付

2）厚生労働省（2013）　平成25年度第4回血液事業部運営委員 http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000030623.html

3）文部科学省（2009）　高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編

4）大津一義，阿部茂明，他（2010）　たのしい保健5・6年，大日本図書

5）髙石昌弘，細江文利，他（2011）　中学校保健体育，大日本図書

6）永嶋良之，新井明日奈，他（2012）　性感染症の知識とHIV検査態度に関する―考察　―中学高校大学生における調査から―，日本エイズ学会誌，14：118-124

7）厚生省HIV感染症の疫学研究班行動科学研究グループ（2000）　日本人のHIV/STD関連知識，性行動，誠意式についての全国調査―日本人のHIV/STD関連知識，性行動，性意識に関する性・年齢別分析―，教育アンケート年鑑2000年版下：117-135.

8）厚生省HIV感染症の疫学研究班行動科学研究グループ（2000）「全国国立大学生　Sexual Health Study」調査報告書　大学生のHIV/STD関連知識・性意識に関する研究

9）白阪琢磨（2012）　増え続けるHIV/AIDS感染者・患者数日本の新規AIDS患者は過去最多に…！　教育現場で，より関心を持たせることが望まれます―最新の都道府県別・累積報告状況もあります，健，2012.12：20-21.

10）岩崎礼子，舩田松代，他（1997）　横浜市内の女子大学生におけるエイズについての意識と教育効果に関する研究，横浜女子短期大学研究紀要，12：1-23.

11）山本智子，田中満由美，他（2002）　学生の性に関する知識・意識・行動の変化―「2000・世界エイズデー山口」に参加して―，山口県立大学看護学部紀要，6：111-117.

12）野坂祐子，内海千種（2008）　青少年の性行動とSTD/STIs予防行動について―セクシュアル・ヘルスの観点から―，大阪教育大学紀要，56：117-127.

13）平野智之（2010）　高校生エイズ・ピア・エデュケーションの実践的研究―ボランティア学習における対話の考察―，日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要，16：84-93.

14）忠津佐和代，梶原京子，他（2008）　大学生の性に関する認識の実態とピアカウンセリングへの期待―ピアによる性教育ニーズと教育内容の検討―，川崎医療福祉学会誌，17：313-331.

15）山崎裕美子，近藤照敏，他（2011）　女子大学生のエイズ・性感染症に関する意識―養護教諭，保健体育教諭を目指す学生の当事者・支援者意識―，園田学園女子大学論文集，45：41-51.

16）鈴木良則，種村紀代子，他（2000）　大学生のエイズに関する知識・態度の実態，日本体育学会大会号，51：453.

17）玉城英彦（2012）　ともに生きるためのエイズ　当事者と社

会が克服していくために，彩流社
18）青木美由紀（2010） ぼくは8歳，エイズで死んでいくぼくの話を聞いて 南アフリカの570万のHIV感染者と140万のエイズ孤児たち，合同出版
19）武川行男（2001） 子どもに語る五分間性教育，ぎょうせい
20）公共財団エイズ予防財団API-Netエイズ予防情報ネット http://api-net.jfap.or.jp/index.html

（2014年9月24日受理）